

福岡市の流入人口は全国第5位

～平成17年国勢調査結果(その6)従業地・通学地集計結果～

平成17年国勢調査（10月1日実施）における従業地・通学地の集計結果から、福岡市の概況を紹介します。

1. 昼間人口と夜間人口

(1) 概要

昼夜間人口比率は113.4%

平成17年10月1日現在の通勤・通学による福岡市の流入人口※1は262,548人で、前回調査（平成12年）に比べ2,608人減少しました。一方、流出人口※2は76,289人で、前回に比べ5,645人増加しています。

本市は、流入人口が流出人口を上回る流入超過が続いていますが、流入超過人口は186,259人と、前回に比べ8,253人減少しています。

その結果、人口の伸びと合わせて、本市の昼間人口※3は1,571,184人となり、前回に比べ40,010人増加（2.6%増）、夜間人口※4は1,384,925人で、前回に比べ48,263人増加（3.6%増）しています。

夜間人口に対する昼間人口の割合を示す昼夜間人口比率は113.4%で、前回から昼間人口、夜間人口ともに増加しているものの、夜間人口の伸びが大きいいため、昼夜間人口比率は前回に比べ1.2ポイント下降しています。（表1、図1）

(2) 行政区別

博多区の昼間人口は夜間の約2倍

行政区別に昼間人口及び夜間人口を見

図1 昼・夜間人口の推移

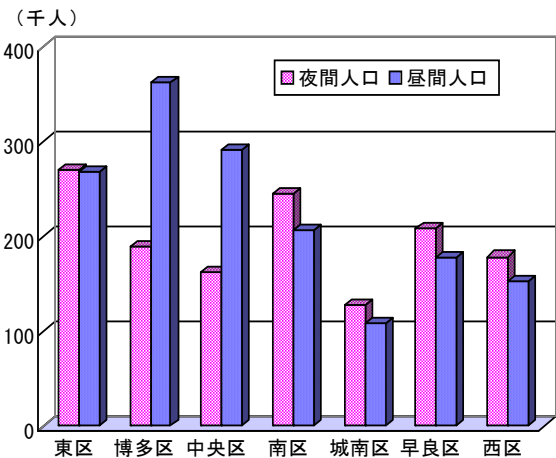
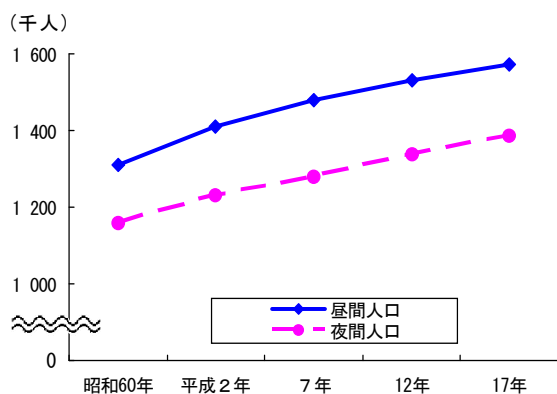


表1 昼間人口，夜間人口等の推移

	常住地による人口			従業地・通学地による人口			流入超過人口	昼夜間人口比率
	(夜間人口)	増加率	流出人口	(昼間人口)	増加率	流入人口		
	人	%	人	人	%	人	人	%
昭和60年	1 159 521	6.7	44 988	1 311 195	6.7	196 662	151 674	113.1
平成2年	1 229 865	6.1	57 125	1 409 342	7.5	236 602	179 477	114.6
平成7年	1 280 405	4.1	67 846	1 479 086	4.9	266 527	198 681	115.5
平成12年	1 336 662	4.4	70 644	1 531 174	3.5	265 156	194 512	114.6
平成17年	1 384 925	3.6	76 289	1 571 184	2.6	262 548	186 259	113.4

注) 年齢不詳を含まない。

※1) 流入人口 … 福岡市以外に常住し福岡市へ通勤・通学する人口

※2) 流出人口 … 福岡市に常住し福岡市以外へ通勤・通学する人口

※3) 昼間人口 … 従業地・通学地集計の結果を用いて、常住人口（夜間人口）に流入・流出人口を加減したもの。買物客などの非定期的な移動については考慮していない。

※4) 夜間人口 … 調査の時期に福岡市に常住している人口で、年齢不詳を含まない。

ると、昼間人口では博多区が363,913人（構成比23.2%）と最も多く、中央区292,447人（同18.6%）、東区269,302人（同17.1%）と続きます。

夜間人口では東区が271,184人（同19.6%）と最も多く、南区245,691人（同17.7%）、早良区209,143（同15.1%）と続いています。

昼夜間人口比率を見ると、博多区が192.3%、中央区が179.4%と昼間人口が夜間人口を大きく上回る流入超過となっていますが、その他の行政区はいずれも、夜間人口が昼間人口を上回る流出超過と

なっています。（表2、図2）

(3) 年齢、男女別

男女とも流入が多い20～24歳

年齢（5歳階級）別に見ると、15歳未満と65歳以上を除き、夜間人口は30～34歳が構成比8.7%と最も多くなっていますが、流出人口も最も多く、昼間人口では、流入人口が最も多い20～24歳が構成比9.1%と最も多くなっています。

昼夜間人口比率を見ると、いずれの階層も昼間人口が夜間人口を上回る流入超過となっていますが、15～19歳、20～24

図3 年齢別昼夜間人口比率

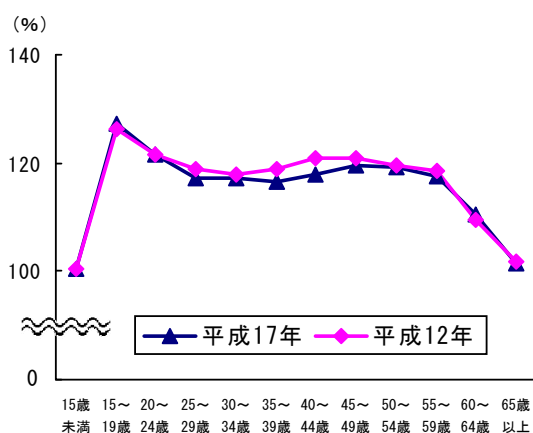


図4 年齢、男女別昼夜間人口比率

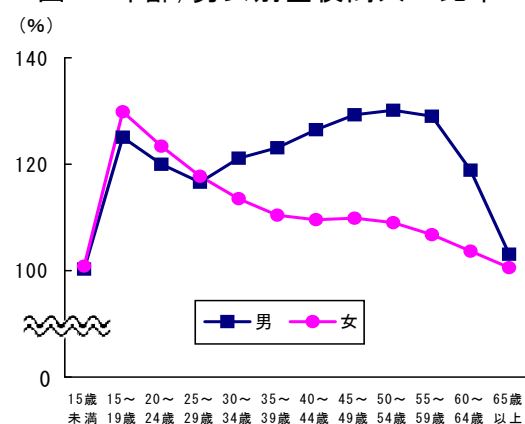


表2 区別昼間人口及び夜間人口等の推移

	常住地による人口 (夜間人口)			従業地・通学地による人口 (昼間人口)			流入超過 人口	昼夜間 人口比率	
	人	%	人	人	%	人		人	%
	平成17年								
福岡市	1 384 925	100.0	76 289	1 571 184	100.0	262 548	186 259	113.4	
東区	271 184	19.6	68 855	269 302	17.1	66 973	△ 1 882	99.3	
博多区	189 255	13.7	37 655	363 913	23.2	212 313	174 658	192.3	
中央区	162 979	11.8	37 432	292 447	18.6	166 900	129 468	179.4	
南区	245 691	17.7	78 214	207 072	13.2	39 595	△ 38 619	84.3	
城南区	127 909	9.2	44 619	107 693	6.9	24 403	△ 20 216	84.2	
早良区	209 143	15.1	65 718	177 988	11.3	34 563	△ 31 155	85.1	
西区	178 764	12.9	53 543	152 769	9.7	27 548	△ 25 995	85.5	
	平成12年								
福岡市	1 336 662	100.0	70 644	1 531 174	100.0	265 156	194 512	114.6	
東区	267 003	20.0	67 938	266 807	17.4	67 742	△ 196	99.9	
博多区	180 454	13.5	35 880	359 392	23.5	214 818	178 938	199.2	
中央区	150 871	11.3	37 052	281 171	18.4	167 352	130 300	186.4	
南区	242 930	18.2	77 343	207 036	13.5	41 449	△ 35 894	85.2	
城南区	125 743	9.4	44 283	106 075	6.9	24 615	△ 19 668	84.4	
早良区	203 048	15.2	66 230	171 201	11.2	34 383	△ 31 847	84.3	
西区	166 613	12.5	52 184	139 492	9.1	25 063	△ 27 121	83.7	

注1) 年齢不詳を含まない。

注2) 各区の流入・流出人口には、本市の他区との流入、流出を含む。

注3) 福岡市の流入・流出人口には、本市の各区間の流入、流出を含まない。

歳の階層が他の階層に比べ昼夜間人口比率が高く、流入人口も多くなっています。
(表3, 図3)

男女別では、男性の昼夜間人口比率は117.6%, 女性は109.6%となっています。

さらに年齢(5歳階級)別に見ると、15歳未満と65歳以上を除き、男性は20~24歳が夜間人口、昼間人口とも最も多くなっているのに対し、女性は夜間人口では30~34歳が、昼間人口では20~24歳が最も多くなっています。

男女ともいずれの階層も流入超過となっていますが、年齢(5歳階級)別にグラフにすると、男性は15~19歳と50~54

歳の階層を頂点とする二つの山を形作るのに対し、女性は15~19歳を頂点に年齢が高くなるにつれてゆるやかに下降していきます。(表4, 図4)

(4) 大都市別

昼夜間人口比率は大都市中第4位

東京都区部を含む18大都市について見ると、流入人口は、東京都区部が3,354,289人と最も多く、以下、大阪市1,239,051人、名古屋市516,793人、横浜市399,345人と続き、福岡市は262,548人で18大都市中5番目となっています。

一方、流出人口は、横浜市が739,648人

表3 年齢(5歳階級)別昼間人口及び夜間人口等の推移

	常住地による人口			従業地・通学地による人口			流入超過人口	昼夜間人口比率
	(夜間人口)	構成比	流出人口	(昼間人口)	構成比	流入人口		
	人	%	人	人	%	人	人	%
総数	1 384 925	100.0	76 289	1 571 184	100.0	262 548	186 259	113.4
15歳未満	187 960	13.6	350	188 985	12.0	1 375	1 025	100.5
15~19歳	82 632	6.0	7 151	105 295	6.7	29 814	22 663	127.4
20~24歳	117 950	8.5	7 849	143 449	9.1	33 348	25 499	121.6
25~29歳	114 440	8.3	7 922	134 036	8.5	27 518	19 596	117.1
30~34歳	120 613	8.7	8 728	141 317	9.0	29 432	20 704	117.2
35~39歳	102 310	7.4	7 847	119 084	7.6	24 621	16 774	116.4
40~44歳	90 448	6.5	7 598	106 568	6.8	23 718	16 120	117.8
45~49歳	84 957	6.1	7 654	101 437	6.5	24 134	16 480	119.4
50~54歳	93 303	6.7	7 707	111 248	7.1	25 652	17 945	119.2
55~59歳	101 608	7.3	7 587	119 585	7.6	25 564	17 977	117.7
60~64歳	75 324	5.4	3 422	83 344	5.3	11 442	8 020	110.6
65歳以上	213 380	15.4	2 474	216 836	13.8	5 930	3 456	101.6

表4 年齢(5歳階級), 男女別昼間人口及び夜間人口

	男				女			
	常住地による人口 (夜間人口)	従業地・通学地による人口 (昼間人口)	流入超過人口	昼夜間人口比率	常住地による人口 (夜間人口)	従業地・通学地による人口 (昼間人口)	流入超過人口	昼夜間人口比率
	人	人	人	%	人	人	人	%
総数	662 782	779 624	116 842	117.6	722 143	791 560	69 417	109.6
15歳未満	96 133	96 426	293	100.3	91 827	92 559	732	100.8
15~19歳	42 722	53 399	10 677	125.0	39 910	51 896	11 986	130.0
20~24歳	60 227	72 264	12 037	120.0	57 723	71 185	13 462	123.3
25~29歳	55 080	64 157	9 077	116.5	59 360	69 879	10 519	117.7
30~34歳	58 252	70 564	12 312	121.1	62 361	70 753	8 392	113.5
35~39歳	49 266	60 588	11 322	123.0	53 044	58 496	5 452	110.3
40~44歳	43 818	55 409	11 591	126.5	46 630	51 159	4 529	109.7
45~49歳	41 311	53 477	12 166	129.4	43 646	47 960	4 314	109.9
50~54歳	45 472	59 166	13 694	130.1	47 831	52 082	4 251	108.9
55~59歳	49 177	63 511	14 334	129.1	52 431	56 074	3 643	106.9
60~64歳	35 005	41 582	6 577	118.8	40 319	41 762	1 443	103.6
65歳以上	86 319	89 081	2 762	103.2	127 061	127 755	694	100.5

と最も多く、以下、東京都区部421,545人、川崎市401,148人、さいたま市309,746人と続き、福岡市は76,289人で11番目となっています。

18大都市中、13都市で流入超過となっており、流入超過人口は、東京都区部が2,932,744人で最も多く、以下、大阪市986,989人、名古屋市322,223人と続き、福岡市は186,259人で4番目となっています。

一方、流入人口も流出人口も多い横浜市をはじめ、東京都近郊のさいたま市、千葉市、川崎市と大阪市近郊の堺市の5都市が流出超過となっています。

昼夜間人口比率は、大阪市が138.0%と最も高く、以下、東京都区部135.1%、名古屋市114.7%と続き、福岡市は113.4%で4番目となっています。(表5、図5)

2. 通勤・通学人口

(1) 15歳以上の従業地・通学地

市内の従業者・通学者が約2%減少

人口が増加する中、福岡市に住んでいる15歳以上の従業者及び通学者は744,512人で、前回に比べ12,072人、1.6%減少しています。

そのうち、市内に従業・通学する就業・

通学者は668,573人（構成比89.8%）で、前回に比べ17,627人、2.6%減少しています。一方、他市町村へ従業・通学する就業・通学者は75,939人（同10.2%）で、前回に比べ5,555人、7.9%増加しています。(表6)

また、福岡市内で従業・通学する15歳以上の従業者及び通学者は929,746人で、前回に比べ20,309人、2.1%減少しています。

そのうち、他市町村に住んでいる就業・通学者は261,173人（同28.1%）で、前回に比べ2,682人、1.0%減少しています。

(表7)

図5 大都市別昼夜間人口比率

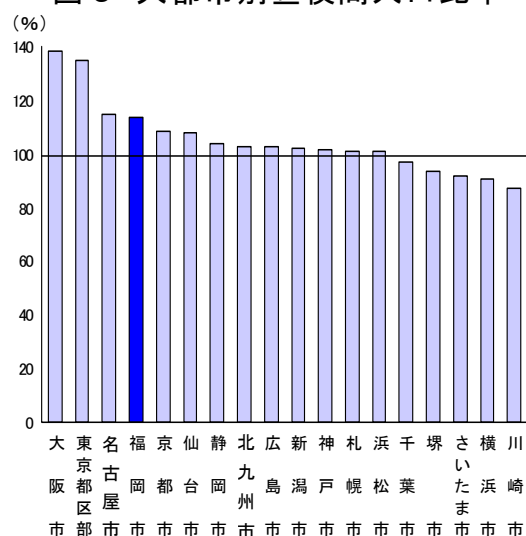


表5 18大都市の昼間人口及び夜間人口等

	常住地による人口		従業地・通学地による人口		流入超過人口	昼夜間人口比率
	(夜間人口)	流出人口	(昼間人口)	流入人口		
札幌市	1 877 965	69 051	1 893 946	85 032	15 981	100.9
仙台市	1 020 160	53 743	1 098 981	132 564	78 821	107.7
さいたま市	1 172 677	309 746	1 077 638	214 707	△ 95 039	91.9
千葉市	919 550	200 816	894 027	175 293	△ 25 523	97.2
東京都区部	8 351 955	421 545	11 284 699	3 354 289	2 932 744	135.1
川崎市	1 326 152	401 148	1 154 436	229 432	△ 171 716	87.1
横浜市	3 545 447	739 648	3 205 144	399 345	△ 340 303	90.4
新潟市	781 638	34 412	800 629	53 403	18 991	102.4
静岡市	700 575	28 040	727 210	54 675	26 635	103.8
浜松市	800 997	41 301	806 370	46 674	5 373	100.7
名古屋市	2 193 973	194 570	2 516 196	516 793	322 223	114.7
京都市	1 460 688	118 297	1 582 980	240 589	122 292	108.4
大阪市	2 594 686	252 062	3 581 675	1 239 051	986 989	138.0
堺市	825 638	176 168	771 580	122 110	△ 54 058	93.5
神戸市	1 520 551	180 078	1 547 971	207 498	27 420	101.8
広島市	1 144 498	64 426	1 174 401	94 329	29 903	102.6
北九州市	992 654	50 322	1 020 447	78 115	27 793	102.8
福岡市	1 384 925	76 289	1 571 184	262 548	186 259	113.4

注) 年齢不詳を含まない。

(2) 地域別流入・流出口

流入・流出の約7割が福岡都市圏

15歳以上の就業者及び通学者の流入人口を地域別に見ると、市外からの通勤・通学者261,173人のうち、県内からの通勤・通学者は239,688人（構成比91.8%）となっていますが、前回に比べ5,632人、2.3%減少しています。一方、他県からの通勤・通学者は21,485人（同8.2%）と、前回に比べ2,950人、15.9%増加しています。

県内を地域別に見ると、福岡都市圏からの通勤・通学者が181,516人（同69.5%）となっていますが、前回に比べ4,991人、2.7%減少しています。また、福岡都市圏以外の県内他市町村からの通勤・通学者も58,172人（同22.3%）と前回に比べ641人、1.1%減少しています。

市町村別に見ると、流入人口が最も多いのは、春日市の25,905人（同9.9%）で、以下、大野城市19,936人（同7.6%）、前原市17,304人（同6.6%）、筑紫野市15,992人（同6.1%）、太宰府市12,268人（同4.7%）、那珂川町11,476人（同4.4%）と続

き、福岡都市圏の筑紫地域の市町が上位を占めています。

同様に流出人口について見ると、市外への通勤・通学者75,939人のうち、県内への通勤・通学者は66,990人（同88.2%）で、前回に比べ3,746人、5.9%増加したものの、他県への通勤・通学の伸びが大きく、構成比は1.7ポイント下降しています。他県への通勤・通学者は8,949人（同11.8%）と、前回に比べ1,809人、25.3%増と大き

図6 福岡都市圏との流入・流出口

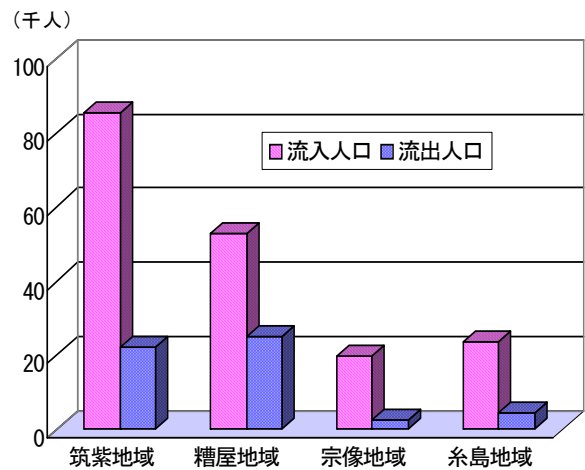


表6 福岡市内に常住する15歳以上の従業・通学状況

	平成12年		平成17年		増減率	男		女	
	人	構成比 %	人	構成比 %		人	人	人	人
総数	756 584	100.0	744 512	100.0	△ 1.6	413 850	330 662		
自市で従業・通学	686 200	90.7	668 573	89.8	△ 2.6	362 634	305 939		
自区で従業・通学	379 387	50.1	362 437	48.7	△ 4.5	185 940	176 497		
自宅	51 908	6.9	49 499	6.6	△ 4.6	28 110	21 389		
自宅外	327 479	43.3	312 938	42.0	△ 4.4	157 830	155 108		
自市内他区で従業・通学	306 813	40.6	306 136	41.1	△ 0.2	176 694	129 442		
他市町村で従業・通学	70 384	9.3	75 939	10.2	7.9	51 216	24 723		
県内	63 244	8.4	66 990	9.0	5.9	43 875	23 115		
他県	7 140	0.9	8 949	1.2	25.3	7 341	1 608		

表7 福岡市内で従業・通学する15歳以上の従業・通学状況

	平成12年		平成17年		増減率	男		女	
	人	構成比 %	人	構成比 %		人	人	人	人
総数	950 055	100.0	929 746	100.0	△ 2.1	530 399	399 347		
自市に常住	686 200	72.2	668 573	71.9	△ 2.6	362 634	305 939		
自区に常住	379 387	39.9	362 437	39.0	△ 4.5	185 940	176 497		
自宅	51 908	5.5	49 499	5.3	△ 4.6	28 110	21 389		
自宅外	327 479	34.5	312 938	33.7	△ 4.4	157 830	155 108		
自市内他区に常住	306 813	32.3	306 136	32.9	△ 0.2	176 694	129 442		
他市区町村に常住	263 855	27.8	261 173	28.1	△ 1.0	167 765	93 408		
県内	245 320	25.8	239 688	25.8	△ 2.3	152 222	87 466		
他県	18 535	2.0	21 485	2.3	15.9	15 543	5 942		

く増加しています。

県内を地域別に見ると、福岡都市圏への通勤・通学者は、54,420人(同71.7%)で、前回に比べ2,664人、5.1%増加しています。福岡都市圏以外の県内他市町村への通勤・通学者も12,570人(同16.6%)と、前回に比べ1,082人、9.4%増加しています。

市町村別に見ると、大野城市の6,154人(同8.1%)が最も多く、以下、粕屋町5,772人(同7.6%)、春日市5,408人(同7.1%)、新宮町4,990人(同6.6%)、古賀市4,051人(同5.3%)と続いています。

全体的に、流入人口が減少し、流出人口が増加した中、福岡都市圏より遠距離に位置する北九州市、久留米市において、流入人口、流出人口のいずれも伸びていることが目立っています。また、ほとんどの

市町から本市へ流入超過となっている中で、唯一、久山町へは流出超過となっています。(表8,図6)

* * * * *

平成17年国勢調査結果の詳細については、福岡市ホームページまたは総務省統計局のホームページをご覧ください。

○福岡市ホームページ

<http://www.city.fukuoka.jp/datafile>

○総務省統計局ホームページ

<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/index.htm>

表8 地域別流入・流出人口(15歳以上就業・通学者)

	福岡市への流入人口					福岡市からの流出人口				
	平成12年		平成17年		増減率	平成12年		平成17年		増減率
	人	構成比 %	人	構成比 %		人	構成比 %	人	構成比 %	
合 計	263 855	100.0	261 173	100.0	△ 1.0	70 384	100.0	75 939	100.0	7.9
県 内	245 320	93.0	239 688	91.8	△ 2.3	63 244	89.9	66 990	88.2	5.9
福岡都市圏	186 507	70.7	181 516	69.5	△ 2.7	51 756	73.5	54 420	71.7	5.1
筑紫地域	88 609	33.6	85 577	32.8	△ 3.4	21 885	31.1	22 273	29.3	1.8
筑紫野市	16 506	6.3	15 992	6.1	△ 3.1	3 419	4.9	3 218	4.2	△ 5.9
春日市	26 379	10.0	25 905	9.9	△ 1.8	5 236	7.4	5 408	7.1	3.3
大野城市	20 598	7.8	19 936	7.6	△ 3.2	5 832	8.3	6 154	8.1	5.5
太宰府市	13 556	5.1	12 268	4.7	△ 9.5	4 089	5.8	4 028	5.3	△ 1.5
那珂川町	11 570	4.4	11 476	4.4	△ 0.8	3 309	4.7	3 465	4.6	4.7
糟屋地域	52 935	20.1	52 812	20.2	△ 0.2	23 025	32.7	25 018	32.9	8.7
古賀市	9 664	3.7	9 760	3.7	1.0	3 693	5.2	4 051	5.3	9.7
宇美町	7 037	2.7	6 880	2.6	△ 2.2	2 014	2.9	1 946	2.6	△ 3.4
篠栗町	6 251	2.4	6 033	2.3	△ 3.5	1 233	1.8	1 446	1.9	17.3
志免町	9 370	3.6	9 120	3.5	△ 2.7	3 184	4.5	3 498	4.6	9.9
須恵町	4 933	1.9	4 557	1.7	△ 7.6	1 558	2.2	1 516	2.0	△ 2.7
新宮町	5 672	2.1	6 005	2.3	5.9	4 812	6.8	4 990	6.6	3.7
久山町	1 654	0.6	1 534	0.6	△ 7.3	1 367	1.9	1 799	2.4	31.6
粕屋町	8 354	3.2	8 923	3.4	6.8	5 164	7.3	5 772	7.6	11.8
宗像地域	21 178	8.0	19 633	7.5	△ 7.3	2 559	3.6	2 668	3.5	4.3
宗像市	11 694	4.4	11 059	4.2	△ 5.4	1 540	2.2	1 489	2.0	△ 3.3
福津市	9 484	3.6	8 574	3.3	△ 9.6	1 019	1.4	1 179	1.6	15.7
糸島地域	23 785	9.0	23 494	9.0	△ 1.2	4 287	6.1	4 461	5.9	4.1
前原市	17 309	6.6	17 304	6.6	△ 0.0	3 359	4.8	3 434	4.5	2.2
二丈町	3 013	1.1	2 682	1.0	△ 11.0	317	0.5	357	0.5	12.6
志摩町	3 463	1.3	3 508	1.3	1.3	611	0.9	670	0.9	9.7
県内他市町村	58 813	22.3	58 172	22.3	△ 1.1	11 488	16.3	12 570	16.6	9.4
北九州市	10 879	4.1	11 389	4.4	4.7	4 157	5.9	4 606	6.1	10.8
久留米市	9 290	3.5	11 122	4.3	19.7	2 840	4.0	3 144	4.1	10.7
他市町村	38 644	14.6	35 661	13.7	△ 7.7	4 491	6.4	4 820	6.3	7.3
他 県	18 535	7.0	21 485	8.2	15.9	7 140	10.1	8 949	11.8	25.3

注) 宗像市、福津市の平成12年の数値は、合併市町村の合算値である。